

### CONTENTS 目次

- 2 特集 八方ヶ原頂上決戦
- 6 全力中学生、矢板からさらなる高みへ
- 8 地域おこし通信・ヤイタゴハン ほか
- 10 子育てひろば・図書館へGO！ ほか
- 12 今月のニュース&トピックス
- 13 はつらつ通信
- 14 市からのお知らせ
- 27 #yaitagram・クイズ&アンケート
- 28 ゆかりびと・編集後記

### COVER 表紙の写真



表紙の写真は、ヒルクライムレースの表彰式の後に行われたシャンパンファイトの様子を撮影したものです。市内ピッツェリア ヴィア・ナポリさんから大会に提供されたシャンパンで、各部門の優勝者たちは、お互いの健闘を称え、喜びを分かち合いました。

### POPULATION 人口 (8月1日現在)

30,679人 (△18)	出生	10人
男 15,271人 (△13)	死亡	34人
女 15,408人 (△5)	転入	66人
13,364世帯 (7)	転出	60人
( )内は7月1日との比較	※住民基本台帳をもとに算出	
△は減		



特集

## 八方ヶ原頂上決戦

やいた八方ヶ原ヒルクライムレース  
Happougahara Hillclimb Race



「やいた八方ヶ原ヒルクライムレース 2023 ～「栃木のラルブデュエス」こと、八方ヶ原に挑戦せよ！～」が7月30日(日)、矢板市平野(白石りんご園前)～大間々駐車場のコースで開催されました。参加した452人は、新設されたe-バイク部門を含む9部門とチームで争うタイムレースで、八方ヶ原の頂上を目指し、駆け上がりました。

コロナ禍の影響で、4年ぶりの開催となった本大会。久しぶりの開催を受け、市内外から168人のボランティアが参加。熱気と歓声に包まれた大会の様子を写真で紹介します。





コース案内をしながら沿道で観戦を楽しむボランティアスタッフ



早朝から会場設営をする中学生ボランティアスタッフ



チーム戦で優勝した矢板アローズ Cycling Team

## 矢板が誇る夏の風物詩に

この大会はボランティアの皆さんの力で成り立っていると言っても過言ではありません。地元の方をはじめ市内の企業の方たちや中高生・大学生など、回を重ねるごとに協力者が増えていて、まさにオール矢板で支えているイベントです。

今大会の開催を通じて、もっと観戦する人たちが楽しめるイベントにしたいと感じました。例えば大会と併せてマルシェやワークショップなどのイベントを開催するなど。観戦場所の確保や観戦客が楽しむコンテンツを増やすことで、盛大なイベントになる可能性を秘めています。そして矢板市でこんなに本格的な自転車のイベントが行われていることを地元の人たちに知ってもらいたいし、もっと楽しんでほしいです。観戦者が増えることで選手たちも士気が上がりますし、地域もより盛り上がると思います。

毎年開催していく中で、課題を解決しながらイベントとしてブラッシュアップし、いずれは、「矢板市の夏の風物詩“八ヶヶ原夏まつり”」として定着してほしいと思います。

来年の開催に向けて、課題はたくさんありますが、楽しみにしてくれている選手の皆さんや、集まってくれるボランティアスタッフ、地元の方々のためにも、実行委員の一員として微力ながら参加させていただきます。

市民の力を集結させ、オール矢板で盛大に開催できるよう、皆さんもご協力よろしくお願ひします。



やいた八ヶヶ原ヒルクライムレース実行委員 藤田 佳希さん  
(じてんしゃ屋フレッシュ 代表)

## 入賞者のみなさんからひとこと

男子アスリートの部 宮城 嗣秀さん

この大会は過去にも何回か出場していますが、初の1位！勝ち取りました！うれしい！



30代の部 土屋 直樹さん

何回か試走して挑みましたが、今日が一番暑かったです。



男子小中学生の部 成瀬 謙汰さん

弱虫ペダルを見て自転車を始めました。二人で完走・入賞できてよかったです。



男子小中学生の部 成瀬 奏音さん

八ヶヶ原はテクニカルでおもしろいコース。最後は精神力でした。



ヘビー級の部 宮沢 英幸さん

40代の部 富岡 雄一郎さん

この大会は涼しいイメージがあったけど、今日は本当に暑かった！またリベンジに来ます。



女子の部 佐藤 恵美さん

来年はさらに自己ベストを更新しに来たいと思います。



遠方賞 三谷 智代さん

大阪から来ました。暑かったけど、とてもいいコースでした。



最高齢賞 梅津 三郎さん

今年で80歳。年々体力が低下していますが、鍛えなおしてあと数年は挑戦したいです。

